

## 第1章 「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」プロジェクトの概要

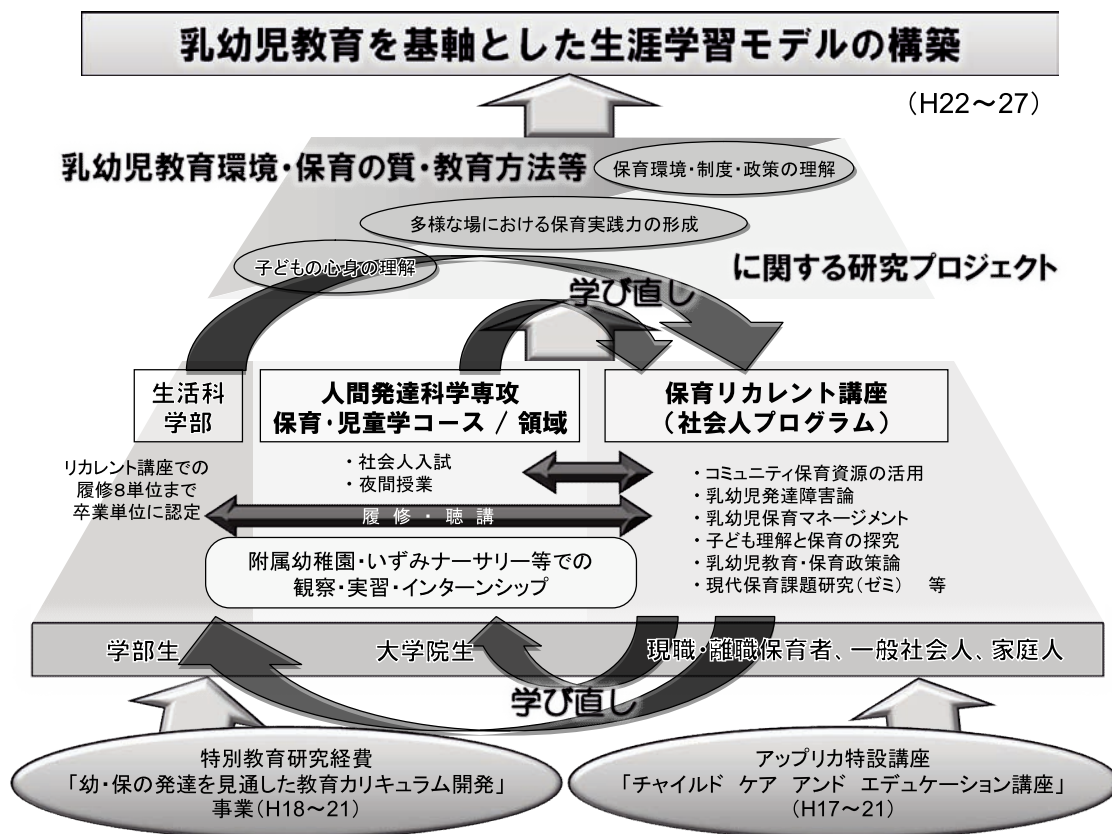
本事業は、特別経費により平成22年度から27年度までの6年間の予定で、「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」プロジェクトを遂行するものである。事業の英語名 Early Childhood Care/Education and Lifelong Learning の頭文字をとって、略称をECCELL（エクセル）としている。本年度はその3年目にあたる。

【概要】平成22年度に現職保育者および乳幼児教育に関心を持つ社会人等の学び直しの間として社会人プログラム（生活科学部特設科目）を開設し、学部・大学院における乳幼児教育リソースと附属幼稚園・附属ナーサリーとの連携した教育研究をすすめ、多様な戦略的保育人材像の探求・育成を複合的に実現する循環的な生涯学習モデルを構築する。

【事業実施主体】生活科学部、大学院人間文化創成科学研究科、附属幼稚園、附属いずみナーサリー

【学内の位置づけ】特別経費（プロジェクト分【新規事業】）〈幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実〉分野

学部・大学院、社会人プログラムにおける乳幼児教育関連の教育、および附属幼稚園・附属ナーサリー等の保育・教育現場などの学内リソースが相互に有機的連携を図りながら、日本の新しい子育て支援ニーズに応え、最先端の知見を創造しながら、より探究的な保育者養成カリキュラムを学外へも発信できるよう研究・教育プログラムを企画実施する。まず、現職保育者をはじめ、乳幼児教育に関心を持つ社会人・保育現場で働く現職者の学び直しの間として「保育リカレント講座」を、2010年度から生活科学部特設講座としてスタートした。多様で戦略的な保育実践・子育て支援策を構想し実現できる人材の育成＝社会還元をめざしている。同時に、現職者の職業観を、学部・大学院学生と共同で学ぶ場において再覚醒させ、より有効な子育て支援および乳幼児教育の成果につながる実践力の養成をめざす。それによって、学内循環型の学び合いシステムを確立し、大学－社会間のリカレント教育システムとも複合した複合的循環的な生涯学習モデルを構築し探求する。



## 第2章 本事業 (ECCELL) 2012 年度の活動実績

### 1. 授業改革 1・学部授業を中心に

#### 1) 生活科学部 発達臨床心理学講座を中心とした授業改革

##### (1) 発達臨床心理学講座専門授業における試み

発達臨床心理学講座の保育系実習・演習科目 (2012年) ●は必修科目、▲は準必修科目

1年次	2年次	3年次
●発達臨床基礎論Ⅱ (前期) ⇒①	●発達臨床観察法 (前期) ⇒②	●発達臨床学特別実習Ⅱ (インターンシップ・通年) ⇒④
●発達臨床基礎演習Ⅱ (後期) ⇒①	▲保育臨床実習 (後期) ⇒③	